

平成28年度

福井県立大学生物資源学部  
転学部・転学科学生募集要項  
《第2年次》

出願期間 平成28年1月7日(木)～1月15日(金)  
試験期日 平成28年1月31日(日)



Fukui Prefectural University  
公立大学法人 福井県立大学

# 目 次

転学部・転学科学生 受 入 方 針 .....	1
<b>I 転学部・転学科試験要項</b>	
1 募 集 学 科 .....	2
2 募 集 人 員 .....	2
3 転学部・転学科の時期および受入年次 .....	2
4 出 願 資 格 .....	2
5 選 抜 方 法 .....	2
6 配 点 .....	2
7 試 験 会 場 .....	3
8 受験上の注意事項 .....	3
9 出 願 手 続 .....	3
10 合 格 発 表 .....	4
11 注 意 事 項 .....	4
12 個人情報の取扱い .....	4
<b>II 転学部・転学科後の履修等</b> .....	6
<b>一般教育科目の履修</b> .....	9
<b>生物資源学部専門教育科目の履修</b> .....	15

# 生物資源学部 転学部・転学科学学生受入方針

## 【理念・目的】

生物資源学部は、生物資源にかかわる諸領域において以下の教育研究活動を推進することにより、地域社会、日本、世界の産業と文化の発展に寄与し、もって人類の将来にわたる福祉の向上に貢献します。この使命を達成するために、次の三つの基本理念を掲げます。

- 1 時代の進展に即応した学術文化の高度化の推進と、それに寄与できる人材の育成
- 2 自主的な真理探究の精神、広い視野および豊かな創造力を有し、基礎的および専門的な知識と技術を備えた実践力ある人材の育成
- 3 学術情報の地域社会への開放

## 【教育目標】

責任ある社会人として必要な教養と倫理観を身につけるとともに、価値観のゆらぐ現代社会において、変化するものとしめないものを見極めて現象の本質に科学的に迫り、生物資源にかかわる諸問題について、最新の専門知識と先端技術による適切な対処ができる能力を養います。もって、地域社会はもとより世界の人々の将来にわたる幸せのため、社会の多様な場で困難を解決しその真の発展を図る意欲、能力、創造性そして寛容さを備えた人材を育成します。そのため、次の教育目標を定めます。

- 1 科学・技術が自然や社会に与える影響を多面的に考え、生物資源の利用に当たって、責任ある方向付けに必要な基礎的素養を身につける。
- 2 生命科学の幅広い理解と応用のための基礎として、数学、自然科学の知識および情報技術を身につける。
- 3 生物資源を利用した農業的生産および工業的生産に関する専門知識ならびにそれを実践する上で必要な知識を身につける。
- 4 急速に変化する生命科学とそれにかかわる技術に対応するために必要な情報収集能力を身につけるとともに、自らの考えを論理的に表現し議論するための対話能力と文章作成能力を身につける。
- 5 生命科学に関する技術的な課題を、安全や環境に配慮するなど、限られた条件の下で設計・解決する能力を身につける。また、課題解決に向けて、互いに協力して仕事をやる能力を身につける。

## 【アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)】

生物資源学部の教育目標に従い、求める学生像や、大学入学までに身につけておくべき教科と科目に関して、次のように定めます。微生物から高等動植物まで多様な生物に興味と関心を持ち、分子から生物、さらに生態系にまで及ぶ広範な対象を取り扱う科学分野の勉学に強い意欲を持って取り組むことができる学生、生物資源にかかわる知識と技術をもとに、将来、地域社会、日本、世界の人々の幸せのために働く意欲と希望を持った学生を求めます。生物資源学を大学で学ぶためには、高等学校等において、国語、英語、数学、生物、化学の基礎学力の習得が必要です

## I 転学部・転学科試験要項

1 募集学科 生物資源学部生物資源学科

2 募集人員 若干名

### 3 転学部・転学科の時期および受入年次

転学部・転学科の時期は、平成28年4月1日とし、受入年次は第2年次とします。

### 4 出願資格

福井県立大学の学生であって、生物資源学部生物資源学科以外の在学中で、1年以上(休学期間を除く。)在学(平成28年3月までに1年間在学となる者を含む。)し、31単位以上修得した者または平成28年3月までに修得見込みの者

### 5 選抜方法

#### (1) 試験期日

平成28年1月31日(日)

#### (2) 試験方法

学力試験(英語、生物・化学)、面接の成績ならびに出願書類の内容を総合的に判定します。

※ 生物と化学からは1科目選択。

#### (3) 試験時間および科目

時 間	試 験 科 目
10:00～11:00	英語
11:30～12:30	生物・化学のいずれか1科目選択
14:30～	面接

### 6 配点

英 語	生 物 ・ 化 学	面 接	合 計
100	100	100	300

※ 面接の配点には出願書類の評価を含みます。

## 7 試験会場

福井県吉田郡永平寺町松岡兼定島4-1-1 福井県立大学福井キャンパス

## 8 受験上の注意事項

- ① 受験者は、1月31日（日）午前9時40分までに指定された試験室に入室し、着席してください。面接の際は、当日指定された集合時刻までに、決められた受験者控室に集合し、待機してください。
- ② 当日は、受験票、筆記用具を必ず持参してください。受験票は、学力試験実施時に、指示に従って、試験監督者が確認できるよう机の上に置いてください。
- ③ 学力試験開始後は、30分以内の遅刻に限り受験を認めます。ただし、時間の延長は行いません。
- ④ 面接開始時刻に不在であった場合は、欠席したものとして取り扱います。
- ⑤ 学力試験、面接のいずれか一方でも受けない方は、選抜の対象から除きます。
- ⑥ 当日、受験票を忘れた方は、速やかに試験会場の試験本部で仮受験票の交付を受けてください。また、受験票は、転学部・転学科の手続の際に必要となりますので、試験後も大切に保管してください。
- ⑦ 学力試験の時間中に使用を許可するものは、鉛筆またはシャープペンシル（読み取りやすい濃さのもの）、消しゴム、鉛筆削り（電動式を除く。）、時計（計時機能のみのも）に限ります。
- ⑧ 和歌・格言等が印刷されている筆記具の使用は不可とします。また、英文字や地図等がプリントされている服等は着用しないでください。
- ⑨ 携帯電話等は、試験室に入る前にアラームの設定を解除し、電源を切ってかばん等に入れておいてください。なお、このことについては、試験室内においても、再度確認を行います。また、携帯電話を時計の代わりに使用することはできません。  
試験時間中に携帯電話を操作した場合、「不正行為」とみなされ、「不合格」となる可能性がありますので注意してください。
- ⑩ 試験会場では昼食の販売を行いませんので、弁当を持参してください。
- ⑪ 事前に試験会場の下見ができますが、教室内には立ち入らないでください。
- ⑫ その他必要が生じた場合には、受験票返送の際に通知します。

## 9 出願手続

### (1) 事前手続

事前に、在籍学部の学生相談担当教員に相談のうえ、出願書類を提出してください。

### (2) 出願期間

平成28年1月7日（木）～1月15日（金）（消印有効）

### (3) 出願方法

出願は、所定の出願用封筒を用い、書留速達扱いの郵送または直接持参によってください。土曜日、日曜日および祝日を除き、午前9時から午後5時まで受け付けます。

#### (4) 出願先

次のいずれか一方に郵送または持参してください。

〒910-1195 福井県吉田郡永平寺町松岡兼定島4-1-1 福井県立大学教育推進課

〒917-0003 福井県小浜市学園町1-1 福井県立大学小浜キャンパス企画サービス室

#### (5) 出願書類

区 分	備 考
① 転学部・転学科志願票	所定の用紙に本人が記入してください。
② 写真票	縦4cm×横3cmの写真(正面上半身無帽、背景なし、出願前3ヶ月以内に単身で撮影したもの)を所定欄に貼付してください。
③ 受験票	所定の用紙に本人が記入してください。
④ 転学部・転学科理由書	所定の用紙に本人が記入してください。
⑤ 成績証明書	平成27年10月以降に発行の成績証明書を提出してください。
⑥ 受験票返送用封筒	所定のものに、受験票返送先の住所、氏名、郵便番号を明記し362円切手を貼ってください。
⑦ 転学部(転学科) 願	所定の用紙に本人が記入してください。(保証人の署名・押印必要)

#### (6) 出願手続上の注意事項

- ① 必要な書類がすべてそろっていない場合には受付できませんので、出願の際に十分確認してください。また、郵送の場合は、出願期間最終日までの消印があるものに限り有効とします。
- ② 出願受付後には、出願事項の変更は認めません。ただし、氏名、住所、電話番号に変更があった場合には、福井県立大学教育推進課まで連絡してください。
- ② 平成28年1月25日(月)までに受験票が届かない場合は、福井県立大学教育推進課までお問い合わせください。
- ④ 一度受付をした出願書類は、理由を問わず返却しません。

## 10 合格発表

### (1) 発表日時

平成28年2月8日(月) 13時

### (2) 発表方法

福井県立大学福井キャンパスおよび小浜キャンパス構内に掲示するとともに、合格通知書を本人あて郵送します。

なお、電話等による問い合わせには応じません。

## 11 注意事項

合格した場合には、必ず転学部・転学科をしなければなりません。

また、一度転学部・転学科した学生が、再度転学部・転学科をすることはできません。

## 1 2 個人情報の取扱い

福井県立大学では、個人情報について以下のとおり取扱いますので、予めご了承ください。

- (1) 個人情報は、「福井県個人情報保護条例」および「公立大学法人福井県立大学個人情報保護取扱規程」に基づき、適正に処理します。法令等の規定に基づくときなどの例外を除き、原則として、第三者に提供することはありません。
- (2) 出願にあたってお知らせいただいた氏名、住所およびその他の個人情報については、①転学部・転学科生の選抜（出願処理、選抜実施）、②合格発表、③転学部・転学科手続、④転学部・転学科選抜方法等における調査、研究、分析、⑤およびこれらに付随する業務を行うために利用します。
- (3) 転学部・転学科生選抜に用いた試験成績の個人情報は、転学部・転学科選抜方法等における調査、研究、分析を行うために利用します。
- (4) 各種業務での利用においては、一部の業務を外部委託する事があります。この場合、受託者には個人情報の保護が義務づけられます。
- (5) 出願にあたってお知らせいただいた個人情報および試験成績は、転学部・転学科後の、①教務関係（学籍、修学指導等）、②学生支援関係（健康管理、就職支援、授業料免除・奨学金申請等）、③授業料徴収に関する業務を行うために利用します。

## II 転学部・転学科後の履修等（2年次）

### 1 修業年限

修業年限は転学部・転学科後3年とします。ただし、転学部・転学科時における学内既修得単位の認定数等により、3年を超える在学年数が必要となることがあります。

### 2 卒業資格

卒業の要件は、転学部・転学科後3年以上在学し、転学部・転学科時に認定された単位と合わせて下記の本学部所定の卒業要件単位を修得することです。一般教育科目および専門教育科目の履修およびカリキュラムについては、本冊子9ページ以降の「一般教育の履修」および「生物資源学部専門教育の履修」を参照してください。

卒業要件単位	
一般教育科目	40単位
専門教育科目	90単位
合計	130単位

生物資源学部生物資源学科の教育プログラムは、日本技術者教育認定基準に適合したプログラムとしてJABEE（※）から認定されており、本学科の入学生、編入学生、および転学部・転学科生はすべて、このプログラムの履修生となります。このプログラムを修了するためには、一般教育科目と専門教育科目の両方において各分野の授業科目をバランスよく履修し、定められた単位を修得する必要があります。この条件を満たすために、本学科では後述4に示す一般教育科目に関する履修ガイドラインを定めており、転学部・転学科後はこのガイドラインに沿って履修することが必要です。

※JABEE（ジャビー、日本技術者教育認定機構、Japan Accreditation Board for Engineering Educationの略）は、大学などで実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求を満たしているかどうかを公平に評価し認定する団体です。JABEEに認定された教育プログラムの修了（卒業）者は、技術者に必要な基礎教育を完了したものと見なされ、技術士第一次試験を免除されて実務修習に入ることができます。

### 3 既修得単位の取扱い

転学部・転学科前に他学部・他学科で修得した単位（学内既修得単位）は以下のように取り扱いません。

一般教育科目：JABEE教育プログラムの履修ガイドラインに沿って、本学部の卒業要件単位として扱います。

専門教育科目：転学部・転学科後に、定められた手続による審査で認められれば、本学部の卒業要件単位として認定されます。

### 4 JABEE教育プログラムを修了するための一般教育科目履修ガイドライン

生物資源学部の学生においては、基礎科目15単位に加えて、以下の区分に従い、一般教育カリキュラム表から単位を修得する必要があります。

① 人文・社会科学関係科目として、



- (ア) 自由科目A群Ⅰ～Ⅳ、Ⅹ、自由科目B群言語文化～運動処方論、自由科目C群学術ゼミ（哲学）～学術ゼミ（臨床心理）および英語特論Ⅰ～Ⅶから3科目6単位以上。
- (イ) 自由科目A群Ⅴから1科目2単位以上。
- ② 数学・自然科学・情報科学関連科目として、自由科目A群Ⅵ～Ⅸ、自由科目B群情報処理C～プログラミングF、自由科目C群学術ゼミ（数理科学）、学術ゼミ（生命環境）および基礎科目Ⅳ情報の情報処理基礎演習、統計処理演習、情報科学Ⅱから3科目6単位以上。

# 一般教育科目の履修

## 一般教育科目の履修方法

本学の一般教育の目標は、自らの特性や能力を引き出し伸ばす基盤としてのバランスの取れた知識を身につけ、理性と感性が調和した新しい時代を担うにふさわしい教養を身につけた人間の形成にある。

授業科目の区分		生物資源学部	配当年次 (主たる履修年次)	
基礎科目	ゼミ	導入ゼミ	1 単位	
		教養ゼミ※1	1	
	外国語 ※2	8 単位以上	1・2	
	体育 ※3	1 単位以上	1	
	情報	2 単位以上	1・2	
	日本語 ※4		1	
	基礎科目 必要単位数	15 単位以上		
自由科目	A 群	10 単位以上	1・2・3	
	B 群	言語文化		2・3・4
		運動処方論		2
		情報処理 C～F		1・2・3・4
		プログラミング A～F		1・2・3・4
	C 群	学術ゼミ(分野) A～F		2・3・4
英語特論 I～VII A～F			2・3・4	
卒業要件単位数		40 単位		

※1 教養ゼミは選択科目 (1 単位)

※2 外国語のうち、英語 I は必修科目 (1 + 1 単位)

※3 体育のうち、体育実技 I は必修科目 (1 単位)

※4 外国人留学生を主対象として開講される科目であり、**日本人学生は受講できない。**

※5 A 群「福井と地域社会」から 2 単位以上選択必修

(注 1) 「配当年次(主たる履修年次)」より高年次の学生でも履修することができる。

また、一度単位を修得した授業科目は再度履修しても単位は与えられないが、「英語 II」については、**教材が同一でないこと**を条件として、何度でも履修することができる。

(注 2) 基礎科目は、必修科目 12 単位 (導入ゼミ 1 単位 + 外国語 8 単位 + 体育 1 単位 + 情報 2 単位) に加えて、教養ゼミ、外国語、体育、情報から 3 単位以上を修得し、計 15 単位以上を修得する必要がある。

(注 3) 一般教育科目は、基礎科目 15 単位と自由科目 A 群 10 単位の計 25 単位に加えて、基礎科目、自由科目 A～C 群から 15 単位修得し、卒業要件単位数として 40 単位修得する必要がある。

(注 4) 生物資源学部の教育プログラムは J A B E E 認定を受けているため、一般教育科目について別途示す履修ガイドライン (6 ページおよび 13 ページ注 3 参照) に沿って、定められた単位を修得する必要がある。

### 1 基礎科目

大学教育を受けるための基礎能力涵養を目的とした、訓練的な要素の強い科目群である。予習・復習を自発的に行う必要がある。半期 (約 15 回の授業) の履修で 1 科目 1 単位が与えられる。

### 2 自由科目

学生が所属する学部や専攻の領域にとらわれず、幅広い教養と自発的な学習意欲を培うことを目指した講義科目群である。履修にあたっては読書や社会・文化・自然現象への絶えざる関心など、自学自習の精神で臨むことが期待される。半期 (約 15 回の授業) の履修で 1 科目 2 単位が与えられる。講義の形態により、A・B・C の 3 群に分類される。

一般教育科目カリキュラム表  
卒業要件単位数 40単位以上

授業科目の名称		配当年次	単位数		備考	
			必修	選択		
基礎科目	I ゼミ	導入ゼミ	1	1		
		教養ゼミ	1		1	
	II 外国語	英語 I	1	1 + 1		15 単位以上 ただし、必修科目以外ほどの基礎科目で単位を積み足してもよい。 <u>外国語は8 単位以上修得しなければならない。</u> 英語 I は、1 授業ごとに1 単位を与え、2 単位を必要単位とする。 英語 II は複数の種類の授業が開講され、何単位でも修得することができる。 中国語、韓国朝鮮語、ドイツ語、フランス語、ロシア語の I および II、外国語特講 E、F は、それぞれ週 2 回の授業からなる。原則として 2 回の授業を連結させ 2 単位を与えるが、1 授業ごとに個別に 1 単位を与えることができる。 海外語学研修の修得単位数の上限は、英語で 4 単位、中国語で 2 単位、英語と中国語をあわせて 4 単位までとする。
		英語 II	1・2		各 1	
		中国語 I	1		1 + 1	
		中国語 II	1		1 + 1	
		中国語 IIIa	2・3・4		1	
		中国語 IIIb	2・3・4		1	
		中国語 IVa	2・3・4		1	
		中国語 IVb	2・3・4		1	
		韓国朝鮮語 I	1		1 + 1	
		韓国朝鮮語 II	1		1 + 1	
		韓国朝鮮語 III	2・3・4		1	
		韓国朝鮮語 IV	2・3・4		1	
		ドイツ語 I	1		1 + 1	
		ドイツ語 II	1		1 + 1	
		ドイツ語 III	2・3・4		1	
		ドイツ語 IV	2・3・4		1	
		フランス語 I	1		1 + 1	
		フランス語 II	1		1 + 1	
		フランス語 III	2・3・4		1	
		フランス語 IV	2・3・4		1	
		ロシア語 I	1		1 + 1	
		ロシア語 II	1		1 + 1	
		ロシア語 III	2・3・4		1	
		ロシア語 IV	2・3・4		1	
		外国語特講 A	1・2・3		1	
		外国語特講 B	1・2・3		1	
	外国語特講 C	1・2・3		1		
	外国語特講 D	1・2・3		1		
	外国語特講 E	1・2・3		1 + 1		
	外国語特講 F	1・2・3		1 + 1		
	海外語学研修 (英語・中国語)	2・3・4		2		
	III 体育	体育実技 I	1	1		
		体育実技 II	1		1	
		体育実技 III	1		1	
IV 情報	情報基礎演習	1		1		
	情報処理基礎演習	1・2・3・4		1		
	統計処理演習	1・2・3・4		1		
	情報科学 I	1	1			
情報科学 II	2・3・4		1			
V 日本語	基礎日本語 I	1		1		
	基礎日本語 II	1		1		
自由科目	A 群	I 歴史と思想	哲学	1・2・3		2
			倫理学	1・2・3		2
			宗教学	1・2・3		2
			歴史学	1・2・3		2
			東洋思想	1・2・3		2
			西洋思想	1・2・3		2
			現代思想	1・2・3		2
			日本史	1・2・3		2
			東洋史	1・2・3		2
			西洋史	1・2・3		2
			イスラーム史	1・2・3		2
			科学史	1・2・3		2
			II 言語表現と文化	国語学	1・2・3	
	言語学	1・2・3			2	
	文学概論	1・2・3		2		
	国文学史	1・2・3		2		

区分	授業科目	配当年次	単位数		備考		
			必修	選択			
自由科目	Ⅱ 言 語 表 現 文 化 と	国文学	1・2・3		2	I～Xまでの領域から、どの自由科目をいくつ選択履修してもよい。	
		美学	1・2・3		2		
		美術史	1・2・3		2		
		芸術学	1・2・3		2		
	Ⅲ 現 代 の 社 会	社会学 ※	1・2・3		2		
		現代家族論	1・2・3		2		
		政治学	1・2・3		2		
		国際関係論	1・2・3		2		
		国際政治学	1・2・3		2		
		経済学 ※	1・2・3		2		
		国際経済	1・2・3		2		
		法学	1・2・3		2		
		日本国憲法	1・2・3		2		
		憲法原論 ※	1・2・3		2		
	現代人権論 ※	1・2・3		2			
	現代社会と将来設計	1・2・3		2			
	Ⅳ 世 界 の 文 化 と 社 会	文化人類学	1・2・3		2		
		地理学	1・2・3		2		
		神話学	1・2・3		2		
		比較文化論	1・2・3		2		
		異文化理解	1・2・3		2		
		東アジアの文化と社会	1・2・3		2		
		東南アジアの文化と社会	1・2・3		2		
		アフリカの文化と社会	1・2・3		2		
		ヨーロッパの文化と社会	1・2・3		2		
	※ Ⅴ 福 井 と 地 域 社 会	日本の文化と社会	1・2・3		2		※「Ⅴ 福井と地域社会」から2単位以上を選択すること。
		福井の文化と社会	1・2・3		2		
		福井方言と標準語	1・2・3		2		
		海と暮らし	1・2・3		2		
		ボランティア論	1・2・3		2		
		恐竜学	1・2・3		2		
		福井を学ぶ	1・2・3		2		
		地域社会とフィールドワークA	1・2・3		2		
		地域社会とフィールドワークB	1・2・3		2		
		地域社会とフィールドワークC	1・2・3		2		
		地域社会とフィールドワークD	1・2・3		2		
		地域社会とフィールドワークE	1・2・3		2		
		地域社会とフィールドワークF	1・2・3		2		
		地域特講A	1・2・3		2		
		地域特講B	1・2・3		2		
地域特講C	1・2・3		2				
地域特講D	1・2・3		2				
地域特講E	1・2・3		2				
地域特講F	1・2・3		2				
Ⅵ 健 康 と 人 間	健康科学	1・2・3		2			
	スポーツ科学	1・2・3		2			
	心理学	1・2・3		2			
	行動科学	1・2・3		2			
	人間関係論	1・2・3		2			
	ジェンダー論	1・2・3		2			
	福祉国家論	1・2・3		2			
	生体科学Ⅰ	1・2・3		2			
	生体科学Ⅱ	1・2・3		2			
認知科学	1・2・3		2				
Ⅶ 自 然 と 環 境	環境論	1・2・3		2			
	現代の科学	1・2・3		2			
	宇宙科学	1・2・3		2			
	地球科学	1・2・3		2			
	生物科学	1・2・3		2			
	生命環境科学	1・2・3		2			
	技術の世界	1・2・3		2			
	複雑系科学	1・2・3		2			

区分	授業科目	配当年次	単位数		備考		
			必修	選択			
自由科目	VIII 情報と数理	論理学	1・2・3		2	※生物資源学部の学生は、 数学基礎を一般教育科目と して履修することはできな い。	
		解析学	1・2・3		2		
		代数学	1・2・3		2		
		統計学基礎	1・2・3		2		
		物理学Ⅰ	1・2・3		2		
		物理学Ⅱ	1・2・3		2		
		数学基礎 ※	1・2・3		2		
		メディア情報処理概論	1・2・3		2		
		IX 教養特講	教養特講A	1・2・3			2
			教養特講B	1・2・3			2
			教養特講C	1・2・3			2
			教養特講D	1・2・3			2
	教養特講E		1・2・3		2		
	教養特講F		1・2・3		2		
	教養特講G		1・2・3		2		
	教養特講H		1・2・3		2		
	教養特講I		1・2・3		2		
	教養特講J		1・2・3		2		
	教養特講K		1・2・3		2		
	教養特講L		1・2・3		2		
	A群	X 発展自由科目	哲学特殊講義	2・3・4			2
			宗教学特殊講義	2・3・4			2
			国文学特殊講義	2・3・4			2
			芸術学特殊講義	2・3・4			2
			社会学特殊講義	2・3・4			2
			政治学特殊講義	2・3・4			2
			現代人権論特殊講義	2・3・4			2
			文化人類学特殊講義	2・3・4			2
			人間関係論特殊講義	2・3・4			2
			生命環境科学特殊講義	2・3・4			2
			歴史学特殊講義	2・3・4			2
			教養の最前線A	2・3・4			2
			教養の最前線B	2・3・4			2
			教養の最前線C	2・3・4			2
			教養の最前線D	2・3・4			2
			教養の最前線E	2・3・4			2
			教養の最前線F	2・3・4			2
			B群	言語文化(中国)A	2・3・4		
	言語文化(中国)B	2・3・4			2		
	言語文化(中国)C	2・3・4			2		
	言語文化(中国)D	2・3・4			2		
	言語文化(韓国朝鮮)A	2・3・4			2		
	言語文化(韓国朝鮮)B	2・3・4			2		
	言語文化(ドイツ)A	2・3・4			2		
	言語文化(ドイツ)B	2・3・4			2		
言語文化(フランス)A	2・3・4			2			
言語文化(フランス)B	2・3・4			2			
言語文化(ロシア)A	2・3・4			2			
言語文化(ロシア)B	2・3・4			2			
運動処方論	2			2			
情報処理C	1・2・3・4			2			
情報処理D	1・2・3・4			2			
情報処理E	1・2・3・4			2			
情報処理F	1・2・3・4			2			
プログラミングA	1・2・3・4			2			
プログラミングB	1・2・3・4			2			
プログラミングC	1・2・3・4			2			
プログラミングD	1・2・3・4			2			
プログラミングE	1・2・3・4		2				
プログラミングF	1・2・3・4		2				
C群	学術ゼミ(哲学) A～F	2・3・4		2			
	学術ゼミ(東洋) A～F	2・3・4		2			
	学術ゼミ(西洋史) A～F	2・3・4		2			
	学術ゼミ(国文学) A～F	2・3・4		2			
	学術ゼミ(美学) A～F	2・3・4		2			
	学術ゼミ(社会学) A～F	2・3・4		2			
	学術ゼミ(国際政治) A～F	2・3・4		2			

区分	授業科目	配当年次	単位数		備考
			必修	選択	
自由科目	学術ゼミ (法学) A～F	2・3・4		2	
	学術ゼミ (文化人類学) A～F	2・3・4		2	
	学術ゼミ (発達心理) A～F	2・3・4		2	
	学術ゼミ (地域研究) A～F	2・3・4		2	
	学術ゼミ (臨床心理) A～F	2・3・4		2	
	学術ゼミ (数理科学) A～F	2・3・4		2	
	学術ゼミ (生命環境) A～F	2・3・4		2	
	英語特論Ⅰ A～F	2・3・4		2	
	英語特論Ⅱ A～F	2・3・4		2	
	英語特論Ⅲ A～F	2・3・4		2	
	英語特論Ⅳ A～F	2・3・4		2	
	英語特論Ⅴ A～F	2・3・4		2	
	英語特論Ⅵ A～F	2・3・4		2	
	英語特論Ⅶ A～F	2・3・4		2	

注1：備考欄の単位数は、各々の区分において卒業要件となる修得単位数である。

注2：一般教育科目については、卒業要件となる単位として、40単位以上を修得しなければならない。

注3：生物資源学部の学生においては、基礎科目15単位に加えて、以下の区分に従い、一般教育カリキュラム表から単位を修得しなければならない。

① 人文・社会科学関係科目として、

(ア) 自由科目A群Ⅰ～Ⅳ、Ⅹ、自由科目B群言語文化～運動処方論、自由科目C群学術ゼミ(哲学)～学術ゼミ(臨床心理)および英語特論Ⅰ～Ⅶから3科目6単位以上。

(イ) 自由科目A群Ⅴから1科目2単位以上。

② 数学・自然科学・情報科学関連科目として、

自由科目A群Ⅵ～Ⅸ、自由科目B群情報処理C～プログラミングF、自由科目C群学術ゼミ(数理科学)、学術ゼミ(生命環境)および基礎科目Ⅳ情報の情報処理基礎演習、統計処理演習、情報科学Ⅱから3科目6単位以上。

# **生物資源学部専門教育科目の履修**



# 生物資源学部生物資源学科専門教育科目の履修方法

## 1 卒業に必要な単位数

専門教育科目は、必修科目および選択科目（A群、B群、C群）からカリキュラムが編成されており、それぞれの科目群から所定の単位を修得する必要がある。

卒業に必要な単位数は、次のとおりである（具体的な授業科目については、後記「カリキュラム表」参照）。

必修科目		58単位
選択科目	A群	8単位以上
選択科目	B群	24単位以上
計		90単位以上

## 2 履修上の留意事項

### 卒業論文の履修条件

卒業論文を履修することができるのは、本学に3年以上在学し、かつ、次のいずれかの一に該当する者に限られる。ただし、2年次に編入学した者は編入時において本学に1年在学したものとみなす。

- ① 卒業の要件となる単位（卒業論文に係る単位を除く。）を修得している者
- ② 履修を届け出た学年終了後に、卒業の要件となる単位（卒業論文に係る単位を除く。）を修得できる見込みのある者

## 3 オナーズプログラム

オナーズプログラムとは、専門教育科目について、より深く、広い専門的知識を有する人材となるために、卒業要件単位数以上の履修を自主的に選択できる制度である。

所定の単位数を修得し、かつその履修した専門科目の平均点が85点以上であるときに、オナーズプログラム履修証書が授与される。

## 4 生物資源学部生物資源学科における JABEE に対応した教育プログラムの学習・教育到達目標

JABEE(ジャビー、日本技術者教育認定機構、Japan Accreditation Board for Engineering Education の略)は、大学などで実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求を満たしているかどうかを公平に評価し認定する団体である。JABEE の認定審査を受け、その結果認定された教育プログラムの修了(卒業)者は、技術者に必要な基礎教育を完了したものと見なされ、技術士第一次試験を免除されて実務修習に入ることができる。

生物資源学部生物資源学科の教育プログラムは、下に示すような学習・教育到達目標を設けた技術者教育プログラムの認定を受けている。この学習・教育到達目標を達成するために、数学、自然科学及び科学技術に関する内容が全体の60%以上となるよう定められている。生物資源学部生物資源学科への入学生、編入学生および転学部・転学科生はすべて、このプログラムの履修

生となる。

尚、本教育プログラムで養成を目指す技術者とは、（１）生物資源の生産、生物資源をとりまく環境の改善、ならびにそれらに関わる応用研究・技術開発に携わる技術者、（２）生物資源を利用した化学品や食品の生産・製造・品質管理とそれらに関わる応用研究・技術開発に携わる技術者である。

### 〔生物資源技術者教育プログラムの学習・教育到達目標〕

- （１） 生物資源に関わる技術者として、
  - ① その技術に対する社会的ニーズの認知に必要な基礎的能力
  - ② 生物資源の利用にあたって、多面的な価値観をもって科学技術が自然や社会に与える影響を考え、責任ある方向づけができる基礎的な素養を身につける。
- （２） 生命科学を幅広く理解し、応用するために必要な基礎学としての数学、自然科学に関する知識および情報技術を身につける。
- （３） 生物資源を活用した農業的生物生産ならびに工業的生物生産の専門技術に関する知識を修得する。
  - （3-1） 生物学に関する高度な知識と、それを生物資源の生産や生物資源をとりまく環境の改善、ならびにそれらの研究開発に応用するための専門的能力を修得する。
  - （3-2） 化学、食品学や微生物学に関する高度の知識と、それを化学品や食品の生産・製造・品質管理やそれらの研究開発に応用するための専門的能力を修得する。
- （４）
  - ① 急速に変化する生命科学とそれに関わる技術に対応するために必要な情報収集能力
  - ② 自分の考えを日本語で論理的に表現し議論する能力
  - ③ 外国語によるコミュニケーションを行うための基礎能力を身につける。
- （５） 生命科学に関わる技術的な課題を限られた条件の下で設定・解決する能力を身につける。また、課題解決に向けて互いに協力をして仕事をする能力を身につける。

## 5 食品衛生管理者および食品衛生監視員の資格要件に関する科目について

食品衛生管理者は、乳製品、食肉製品、添加物などの特に衛生上の考慮を必要とする企業で、製造・加工について管理・監督する者をいう。食品衛生監視員は、国や地方自治体の公務員として、空港や港の検疫所、保健所、市場衛生検査所、食肉衛生検査所、食品環境指導センターなどで、輸入食品を検査・監視し、食品、添加物、容器ならびに施設等の衛生を確保するために監視・指導等を行う者をいう。これらは、いずれも採用者（企業、国、地方自治体等）が、成績証明書などの資格要件を証明する書類をもとに資格の有無を判断し、必要に応じて設置する。

食品衛生管理者および食品衛生監視員の資格要件については、食品衛生法と食品衛生法施行令で「学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に基づく大学、旧大学令（大正 7 年勅令第 388 号）に基づく大学又は旧専門学校令（明治 36 年勅令第 61 号）に基づく専門学校において医学、歯学、薬学、獣医学、畜産学、水産学又は農芸化学の課程を修めて卒業した者」と定められている。このうち、本学部のカリキュラムにおいて農芸化学に関する科目は以下のとおりである。

土壌学、植物栄養学、生化学Ⅰ、応用微生物学Ⅱ、栄養化学、食品化学、農産物利用学、農薬化学、有機化学（以上 9 科目のうちから 8 科目の単位を修得すること）。

## 6 自然再生士補の資格要件に関する科目について

生物資源学部生物資源学科は、一般財団法人日本緑化センターが運営する「自然再生士制度」における「自然再生士補資格養成機関」として認定、登録されている。

自然再生士補は、自然再生に必要な基礎知識を有する自然再生の推進者として、自然再生士が実行する自然再生業務を補佐できる能力が求められる。自然再生士補として認定を受けた場合は、上位資格である自然再生士を受験する場合に必要とされる実務経験年数が、通常より短縮される。

資格修得に必要な科目等については、2年次前期オリエンテーションの際に周知する予定である。

## 7 農業技術職に関連した専門科目について

農業技術職公務員など農業技術職を専門とする職業は、生物資源学部で学んだ知識を活かすことのできる職業のひとつである。本学部のカリキュラムには、将来その分野で必要となる内容を含んだ以下の専門科目が設けられている。農業技術職公務員試験の受験希望者、農業技術を専門とする企業等への就職希望者等は、これらの専門科目を履修することがつよく望まれる。また、昆虫・有害動物に関する内容の専門科目は設けられていないので、教科書や参考書により自習することが望ましい。

環境生物学、植物生理学Ⅰ、遺伝学Ⅰ、土壌学、作物資源学、生態学Ⅰ、生態学Ⅱ、森林生理・生態学、作物学、農業経営論、植物生理学Ⅱ、応用微生物学Ⅰ、植物育種学、植物病理学、動物資源学、植物栄養学、施設園芸学、果樹園芸学

カリキュラム表

生物資源学科 卒業要件単位数 90単位

授業科目の名称		配当年次	単位数		備考	卒業要件 単位数
			必修	選択		
必修 科目	生物学Ⅰ	1	2			58単位
	生物学Ⅱ	1	2			
	化学Ⅰ	1	2			
	化学Ⅱ	1	2			
	数学基礎	1	2			
	生物学実験	1	1			
	化学実験	1	1			
	生物資源学概論	2	2			
	地域生物生産実習	2	1			
	分析化学	2	2			
	一般微生物学	2	2			
	環境生物学	2	2			
	有機化学	2	2			
	植物生理学Ⅰ	2	2			
	動物生理学	2	2			
	遺伝学Ⅰ	2	2			
	生化学Ⅰ	2	2			
	生物化学実験	2	1			
	応用生物学実験	2	1			
	分子生物学実験	3	1			
	微生物学実験	3	1			
	生物物理化学実験	3	1			
	食品生化学実験	3	1			
	植物資源学実験	3	1			
	環境生物学実験	3	1			
	応用生化学演習	3	1			
	分子機能科学演習	3	1			
	分子生物学演習	3	1			
	植物資源学演習	3	1			
	技術者倫理	3	1			
科学英語Ⅰ	3	2				
科学英語Ⅱ	3	2				
専攻演習	4	2				
卒業論文	4	8				
選択 科目	A群	地学概論	1	2		8単位 以上
		土壌学	2	2		
		作物資源学	2	2		
		生態学Ⅰ	2	2		
		応用気象学	2	2		
		地圏環境学	2	2		
		生態学Ⅱ	3	2		
		森林生理・生態学	3	2		
		インターンシップ	3	1		
		作物学	3・4	2		
		農薬化学	3・4	2		
		農業経営論	3・4	2		

(15年度入学生用)

授業科目の名称		配当年次	単位数		備考	卒業要件 単位数
			必修	選択		
選 択 科 目	B 群	植物生理学Ⅱ	2	2		24単位 以上
		遺伝学Ⅱ	2	2		
		食品化学	2	2		
		農産物利用学	2	2		
		生化学Ⅱ	2	2		
		応用微生物学Ⅰ	2	2		
		生物物理化学Ⅰ	2	2		
		分子生物学Ⅰ	3	2		
		分子生物学Ⅱ	3	2		
		分子生物学Ⅲ	3	2		
		応用微生物学Ⅱ	3	2		
		生体高分子化学	3	2		
		生物有機化学	3	2		
		生物物理化学Ⅱ	3	2		
		生物物質化学	3	2		
		植物育種学	3	2		
		植物病理学	3	2		
		動物資源学	3	2		
		細胞免疫学	3	2		
		食品衛生学	3	2		
	栄養化学	3	2			
	植物栄養学	3	2			
	施設園芸学	3・4	1			
	果樹園芸学	3・4	1			
	C 群	生物学基礎	1	1		
		化学基礎	1	1		
生物資源学特別講義Ⅰ		2・3	1			
生物資源学特別講義Ⅱ		2・3	1			
技術者と企業		3	1			
生物資源学特論Ⅰ		3・4	1			
生物資源学特論Ⅱ	3・4	1				